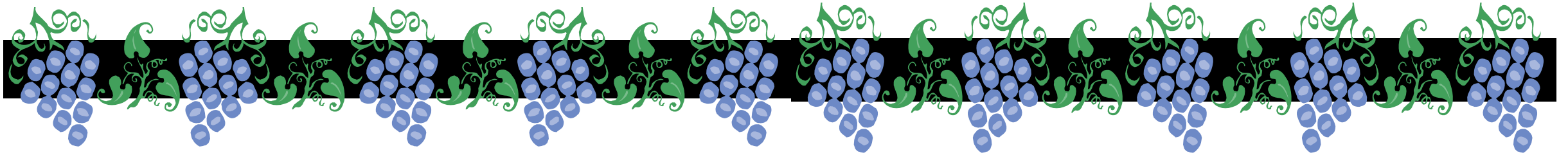
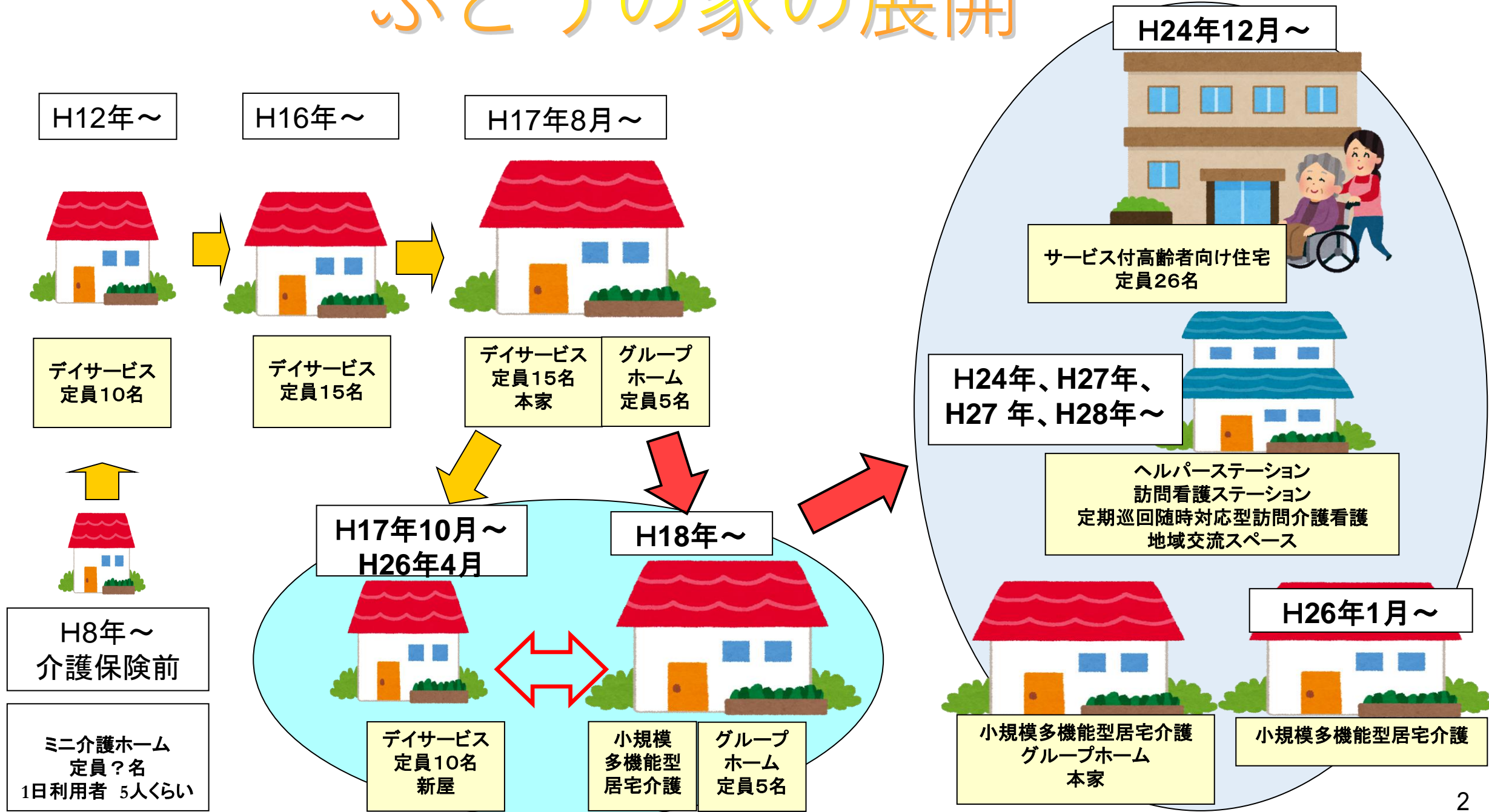


～西日本豪雨からの学び～ 小規模多機能ホームぶどうの家の取り組み

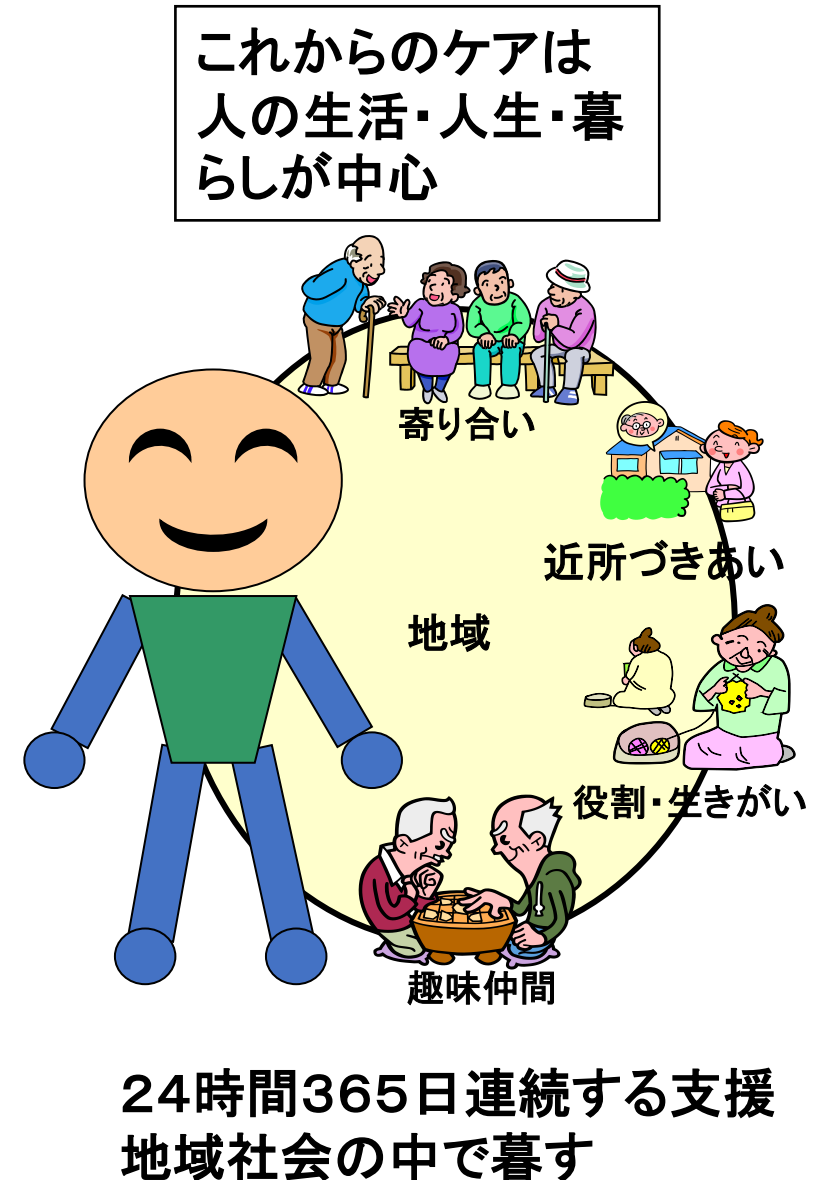
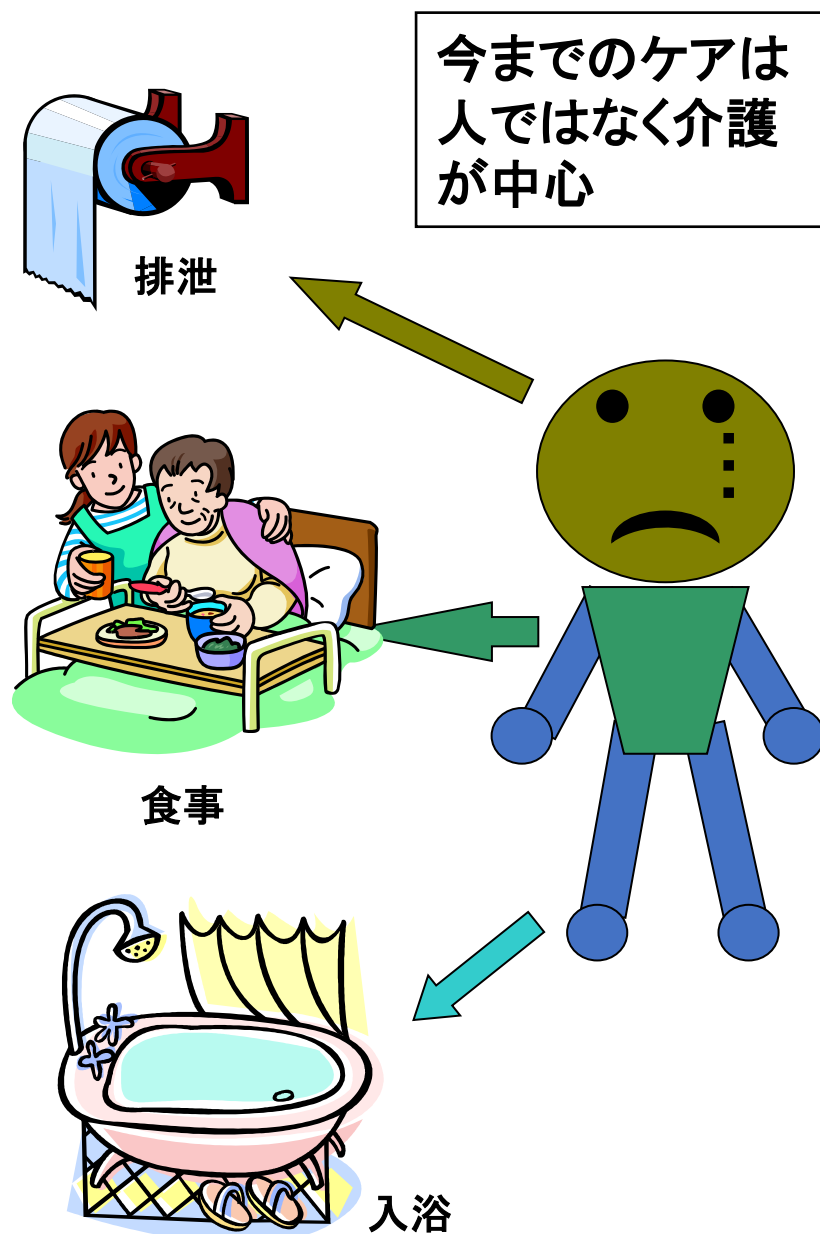


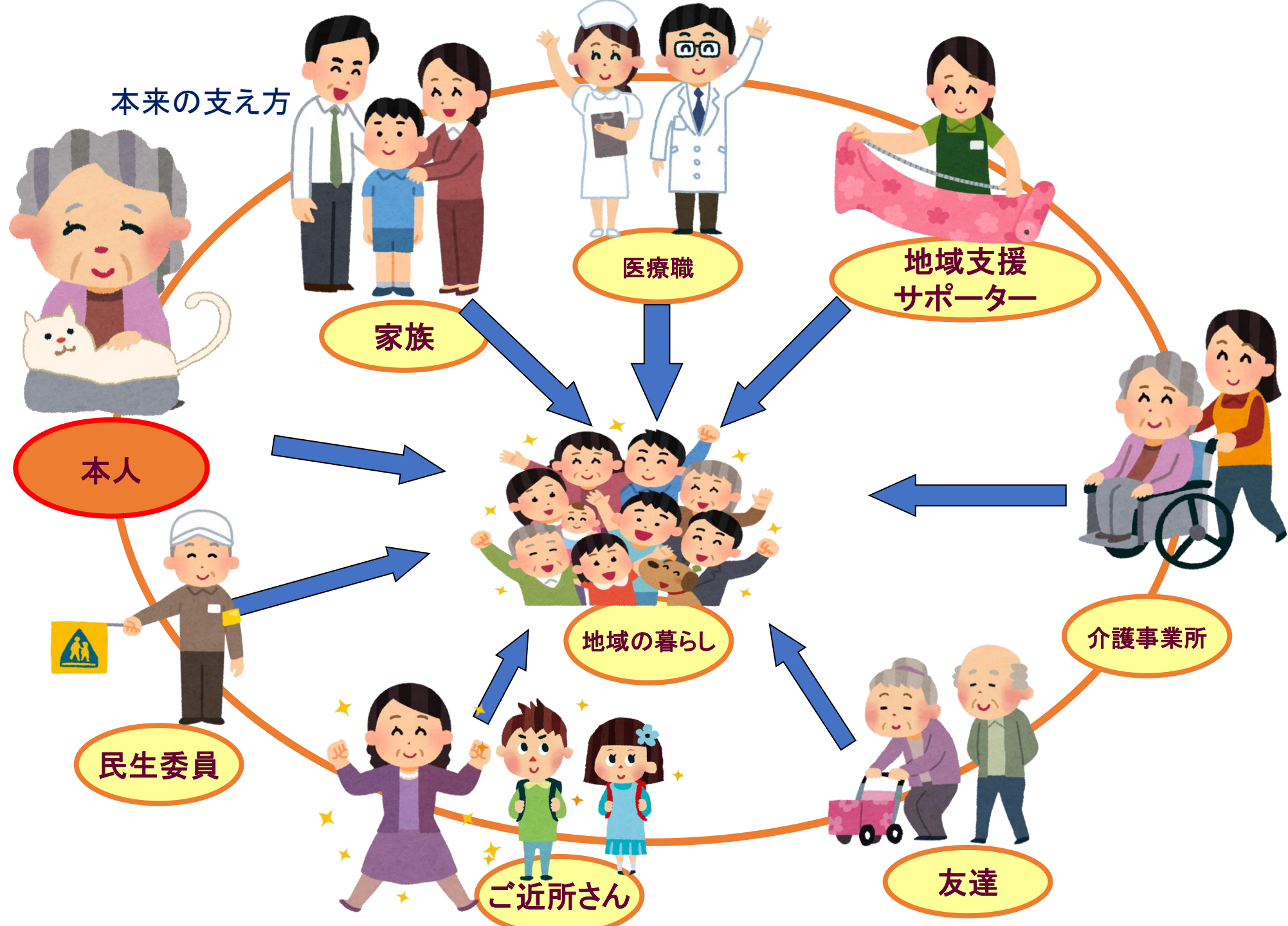
小規模多機能ホームぶどうの家真備（岡山県倉敷市）
津田由起子

ぶどうの家の展開



欠損部分の補填という支援から「人と暮らしの支援」へ





地域交流スペース お食事処「茶々遊亭」&「駄菓子屋 菓々子」



やるなら本格的に 「お食事処」



第2.4 土曜日の月2回開催 500円食べ放題
第2土曜日は「ご当地カレー」

やるなら本格的に 「駄菓子屋」



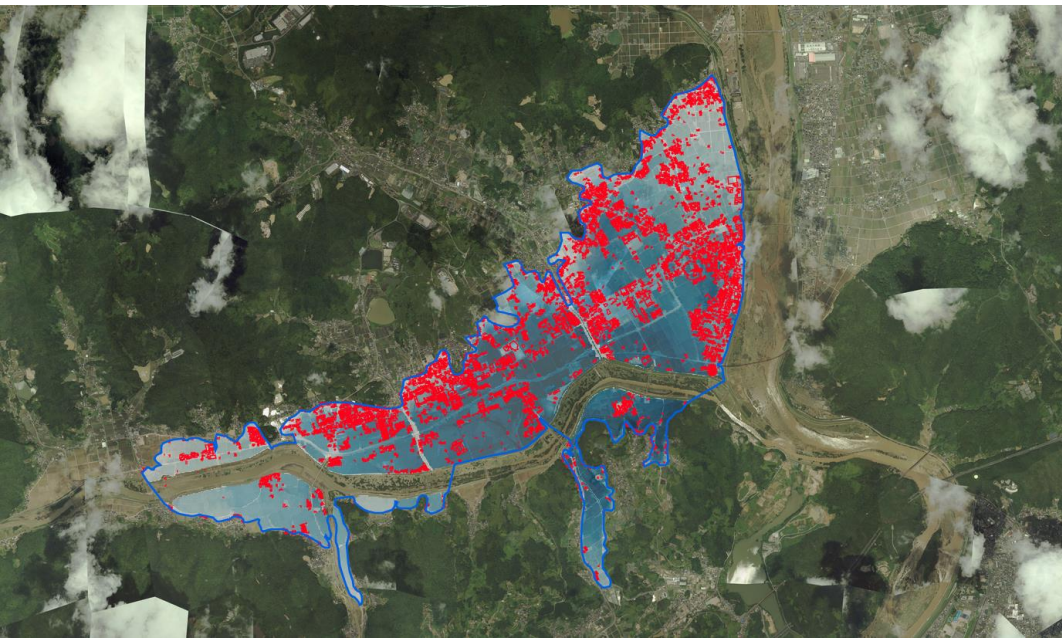
被災（2018年7月西日本豪雨）前

「雨が降るけど、晴れの国岡山だから、大丈夫」

「岡山県は災害の無いことで有名だから大丈夫」

と根拠のない自信を持ち、備えはしていなかった。

ハザードマップは事業所に貼ってあったけど・・・



年2回の避難訓練（昼と夜の想定）は行っていたが

水害は考えていなかった。

地震は建物から外に出るのみ

どっぷり浸かっている箭田地区



被災当日

- 7月6日職員は手分けして、利用者さん宅を回りどうするか相談
- 泊り希望者が無かったので、9時ごろ全職員が退社
- 家に帰ってから、携帯アラームが鳴り響き、アルミ工場の爆発
- 夜明けを待って、総社市内の事業所やクリニックから必要物品をもらい真備に向った。状況はさっぱり把握できていなかった
- 必要物品が何かわからなかったが、過去に受けた研修「東北の被災を経験した事業所の話」を思い出して
- 職員と合流して利用者さんのところへ向かった。
- 一番重度の方が避難していた山の上にいき、総社市内のクリニックに受け入れをお願いした。
- 誰を優先するか、どこに避難するか・・・

菌小学校に行こう

- 高馬川？末政川？右岸決壊？
職員も避難している！
- 菌小学校、二万小学校、岡田小学校が
指定避難所だとネットで調べた。
- 岡田小学校はアルミ工場爆発被害があっただろう。菌地区なら
これまでのつながりから助けてもらえるかもしれないと思った。
- 利用者さん宅を回り避難の声掛けをした。
- いつ、どこへ、どうやって避難するのか何も決めていなかった
- 災害想定もできていなかった



被災直後 7月から10月



- 7月7日早朝から自宅に居られるご利用者宅を回り避難
ほぼ全員が避難を嫌がった
- 菌小学校～公民館分館へ10月28日まで（4ヶ月）
どこに避難するか迷い考えた結果、一番関りに深い地域を選んだ
- 職員が手分けをして安否確認
3日後に全員の安否確認ができたが、救えなかった命があった
- 心身のケアは平時以上に気をつけた
総合記録シートを導入、体操、口腔ケア、おしゃべりタイム

菌公民館分館の様子



被災直後7月から10月

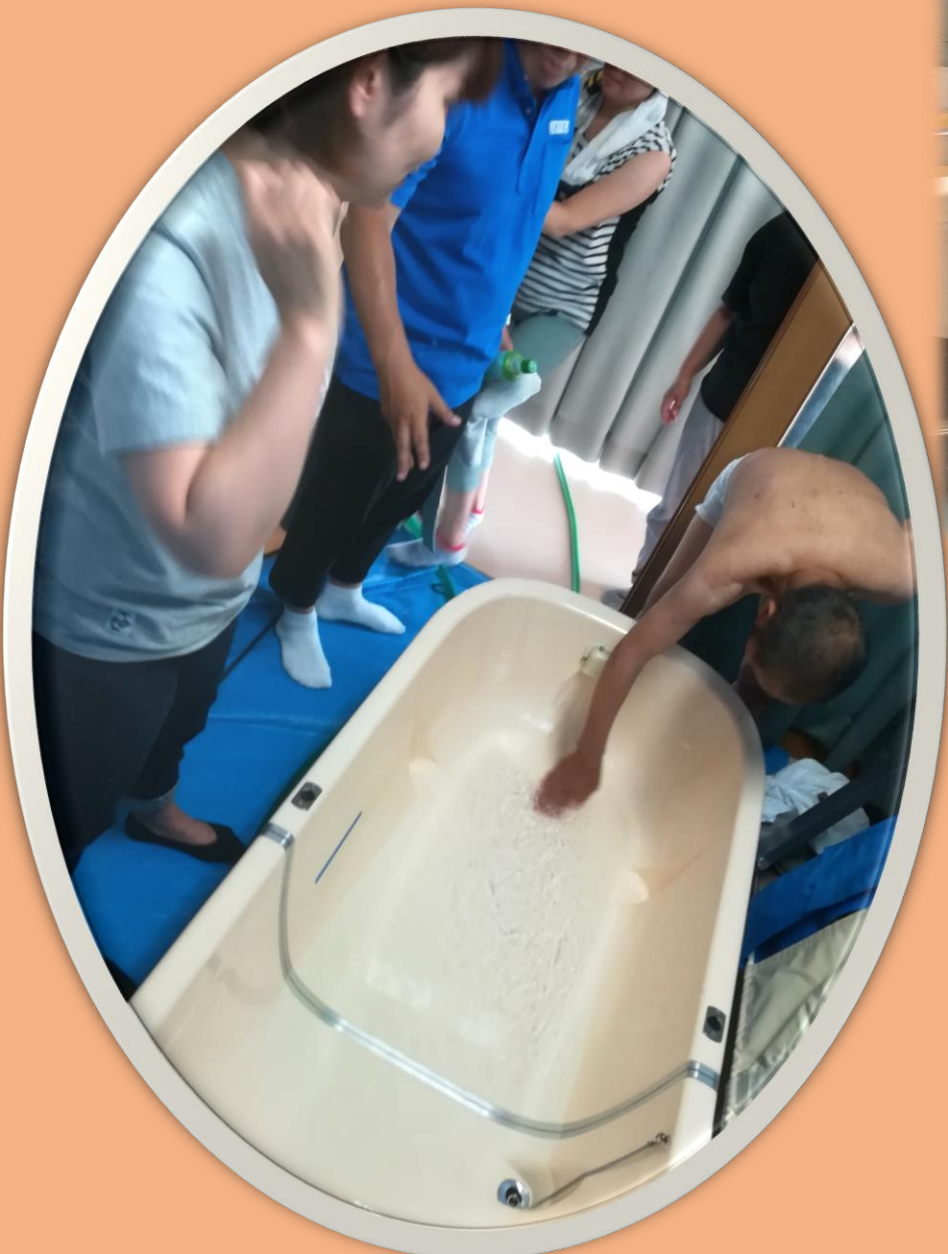


- 避難所でもできることを地域に発信した
「介護職員が常駐しているので、避難所で介護の必要な方は来てください」
福祉的避難所のような場所になっていた。
- 避難所に配られる弁当を持って訪問した。
- 支援者による送迎で温泉に行けた。訪問入浴車を持って来てくださった。
- 在宅を知っている私たちは、施設や設備が乏しくとも暮らしを支える術があった。
- 段ボールベッドはあえてお断りし、自立と交流の機会を保った。



デベロさんの訪問入浴車がやって来た！

ありがとうございました！



何が正解かはわからないけれど、いつもの顔ぶれでいつものケアに近く安心できた。

- 福祉避難所とは認められなかったが、実際に被災した時には日頃を知っているサービス事業所が福祉避難所となれば、復旧時に在宅復帰がより可能になると思った。



たくさんの方々に助けていただいた。。。感謝



公民館から仮設事業所へ11月から2月

- いつまでも公民館に居られない無言のプレッシャー
- みんなつくとの出会い
- 被災した倉庫をリフォーム（台所と風呂をつけて）
- 事業としては1日も休まなかった（事業継続？）

被災から8月後の3月に元の場所に再建できた





2019.3.1 箭田に戻りました！



ありがとうございます



公民館から仮設事業所へ11月から2月

- ぶどうの家BRANCHは地域の方々への恩返しの場に
- 救えなかった命・・・後悔
- 安心して暮らすには住居コミュニティが欠かせない



B.B.を活用し、真備がもっと元気になる！



オレンジボランティア



ぐい真備（飲み会）



宿題大作戦



味噌汁ご飯の会



お祭り



住まいの勉強会

第1回
住まいについて
考える！

これからの私たちの住まいと暮らしについて、
専門家を交えて一緒に考えてみませんか？

H30年11月11日（日）14：00～
SOSU IN 真備

開催場所：ぶどうの家BRANCH（B.B.） 真備町辻田197

講師：防災まちづくりの専門家 磯打さん（香川大学）
在宅医療の専門家 浅野さん（あさのクリニック）
建物・住まいの専門家（調整中）

お申し込み不要。当日直接会場にお越しください。

同日開催！
①16：00～みんなで飲み出しを食べよう
②生活物資の0円フリーマーケット
③お風呂の無料開放 16時～20時半まで
＊②③については毎日開催

お問い合わせ：TEL:086-697-5255 FAX:086-697-5256
ぶどうの家BRANCH（B.B.）



サツキPROJECT

～西日本豪雨で被災したアパートを 地域の防災拠点住宅に再生する～

「今年はサツキの花がきれいに咲くぞ」

水害の後は酸性土になって
サツキがきれいに咲く。
真備の町花をサツキにした
先人たちの知恵を伝えつないで
いく。

2019年8月26日プレゼンテーション
三喜株式会社（ぶどうの家）代表取締役 津田由起子

きっかけは大切な人を失ったこと

- ・ 住まいの再建に不安を抱える被災者と勉強会を重ねるなかで、真備への愛、家族への想いがあふれた
- ・ 「真備に帰りたい。でもまた災害が起こるのではないか」
- ・ 「歳をとって一人で暮らしていけるのか」



第1回
住まいについて考える！

これからの私たちの住まいと暮らしについて、
専門家を交えて一緒に考えてみませんか？

H30年11月11日(日) 14:00～
SOSU IN 真備

開催場所：ぶどうの家BRANCH (B.B.) 真備町辻田197

講師：防災まちづくりの専門家 磯打さん(香川大学)
在宅医療の専門家 浅野さん(あさのクリニック)
建物・住まいの専門家(調整中)

お申し込み不要。当日直接会場にお越しください。

同日開催！

- ① 16:00～みんなで炊き出しを食べよう
- ② 生活物資の0円フリーマーケット
- ③ お風呂の無料開放 16時～20時半まで

*②③については毎日開催

お問い合わせ：TEL:086-697-5136 086-697-5256
ぶどうの家BRANCH

- ・ 小規模多機能ホームぶどうの家の利用者が犠牲に
- ・ 介護が必要な方のご家族は避難所への避難をためらい逃げ遅れた

最悪でも垂直避難ができ、日頃から安心して
避難できる場所が身近にあれば命は助かる

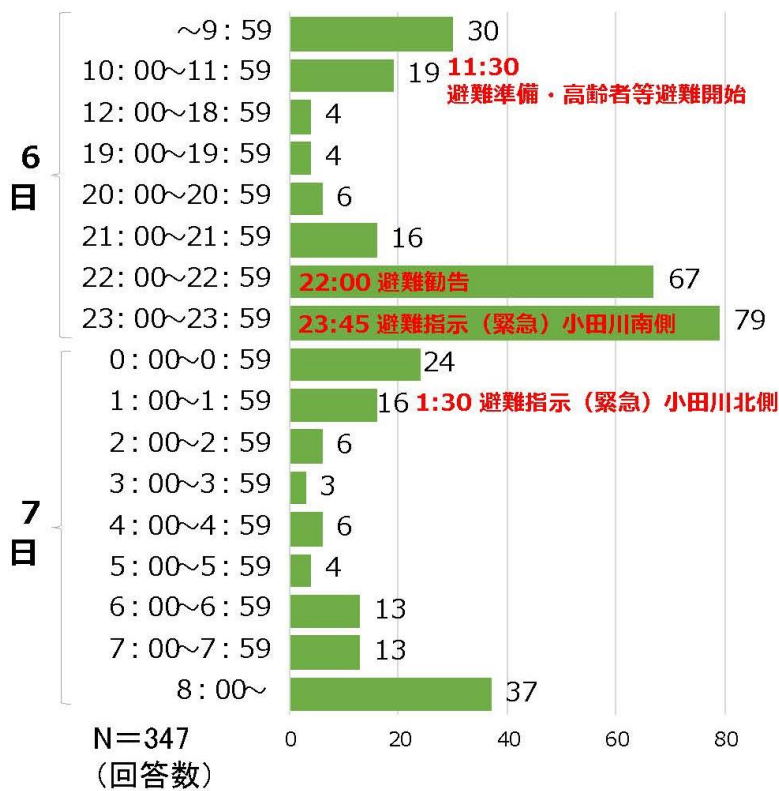
サツキPROJECT



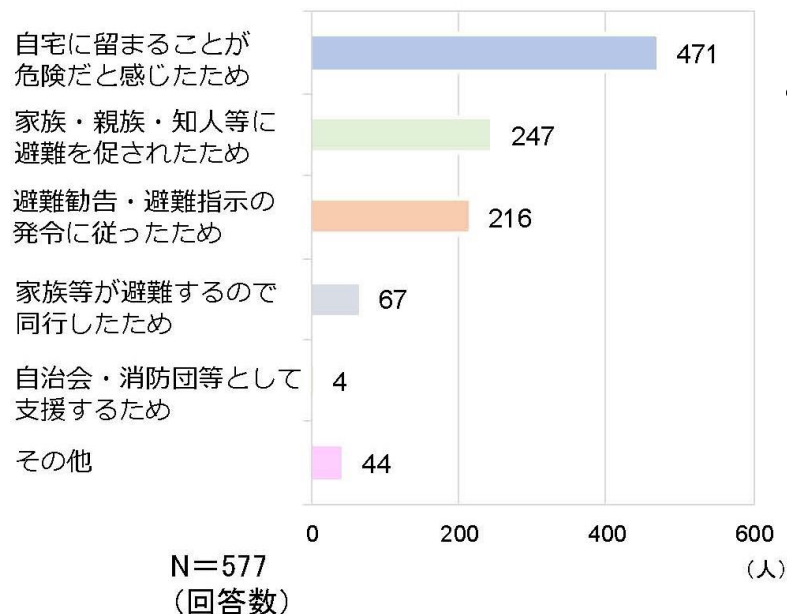
避難行動はなされていた

避難場所※に避難を開始した時刻

※学校等の公共施設（指定避難場所以外を含む）
ただし、親戚・知人宅や職場、神社・集会所・商業施設等に避難した世帯は除く。



避難した理由（複数回答）



・避難勧告・指示発令の段階で、全回答数(347)の内、225回答(64.8%)が避難開始している。

・課題は避難できない方

被害は高齢者に集中

- ・真備町の死者51名の内、88.2%にあたる45人が65才以上
- ・その内、自宅でお亡くなりになった方は44人（86.3%）

要介護度及び身体障害の内訳（倉敷市）

年齢階層	県内全体	うち真備町
65歳未満	12人(19.7%)	6人(11.8%)
65～74歳	17人(27.9%)	15人(29.4%)
75歳以上	32人(52.4%)	30人(58.8%)

死亡場所	県内全体	うち真備町
自宅	44人(72.1%)	44人(86.3%)
その他	17人(27.9%)	7人(13.7%)

真備町の死者 51 人のうち、88.2%にあたる 45 人が 65 歳以上である。

要介護度	人数(割合)
なし	33(63.5%)
要支援 1・2	5(9.6%)
要介護 1	6(11.5%)
要介護 2	2(3.9%)
要介護 3	4(7.7%)
要介護 4	1(1.9%)
要介護 5	1(1.9%)
合 計	52(100%)

身体障害度	人数(割合)
なし	40(76.9%)
4～6級	4(7.7%)
3級	2(3.8%)
2級	3(5.8%)
1級	3(5.8%)
合 計	52(100%)

出典：岡山県検証委員会資料

サツキPROJECTとは？



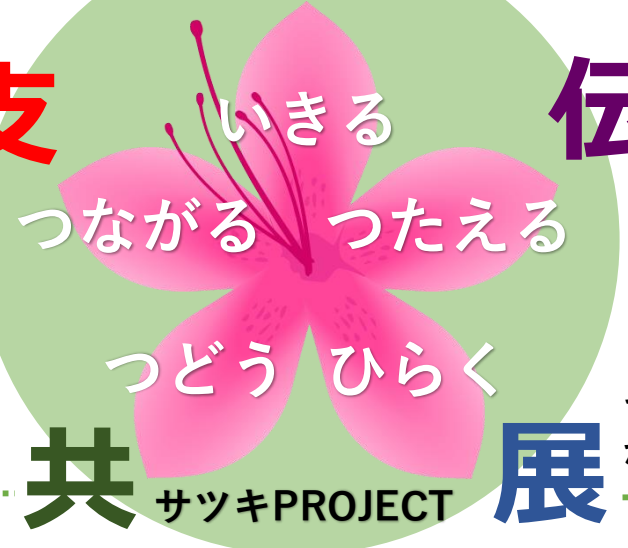
興

51人(直接死)の犠牲を伴った西日本豪雨災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生活を取り戻すための「住まい・生活」を再建。

支

「ちょっと困った」を
ささえあいの
仕組み・暮らし方

誰もか、いつ
も何かがはじまる。
ちょっとした楽しみもちょっと不安も共有できる。



伝

災害の教訓を目に見える形で、住まい方で伝え、次世代へつむいでいく。

共

サツキPROJECT

展

「水害に強いまち」のシンボルとして、避難機能付き共同住宅がサツキが花開くように全国に普及していく。

- ・ 災害に強い建物と地域のきずなを大切に、気かけあった暮らしの両方を備えた暮らし方は、今後の超高齢化社会のモデルに。
- ・ 避難所機能付き住宅(ハード)と暮らし方のスタイル(ソフト)の両方が大切。
- ・ 被災者は支援を受けるだけでなく自らもできることがあるとともに地域を作る協働者である。まずは真備に1棟。
- ・ そこから倉敷市全体に、そして日本全国のモデルに。
- ・ 人口の70%が災害の危険性のある地域に暮らしている日本だからこの考え方を広めたい。

共同住宅に避難部屋

豪雨
西日本

昨夏の西日本豪雨で浸水被害を受けた倉敷市真備町地区で、住民有志が香川大特命准教授と連携し、身近な避難先を確保するプロジェクトをスタートさせた。第1弾として、被災した建物を改修し、高齢者ら災害弱者が逃げ「避難機能付き共同住宅」3月にオープンさせる計画。居室をフリースペースとし、地域の絆づくりを考えた。(臼杵正純)

避難機能付き
共同住宅

有志ら計画

SNS,ウェブ
シンポジウム



被災建物改修 災害弱者を想定 来春オープン

「マ」にした避難所を兼ね、周辺住民とミーティングをた。その中で、高齢・障がい者、万一の時に避難部屋被害者や妊婦らにとって避難へ待避してもらう人を決める。難先は自宅近くが理想的で、フリースペースとして、環境の変化に伴うストレスも軽減できると考え、改修費用は自己資金で取り組むを進めることとした。

計画では、豪雨で被災した同町箭田の2階建ての建物を借り、リノベーションして運用。全8室のうち、避難部屋とする2階の1室(3K)には水や食料を3日分程度蓄え、車いす利用者を想定してスロープを取り付ける。他の7室は避難者へのサポートに理解がある世帯を対象に貸し出す。リノベーションは今秋着工の見込み。併せて住宅の

津田さんは「西日本豪雨で浮き彫りになった課題は、スムーズに動けない人々をどう避難させるか。共同住宅の整備を通じて、地域の実情にあった方策を住民相互で見つけたい」と話している。

グループによると、共同住宅の整備に続く取り組みは、チェックポイントとして、フリースペースの活用などで育んだ人間関係を生かし、コミュニティによる「地区防災計画」づくりを乗り出したいという。

「西日本豪雨は検討中だが、フリースペースの活用などで育んだ人間関係を生かし、コミュニティによる「地区防災計画」づくりを乗り出したいという。」

避難機能付き共同住宅（ハード）

住まいの勉強会参加者の意見でできた
避難機能付き共同住宅プラン

屋上まで直接スロープ



屋上に炊き出し設備、数十人が最低3日は建物の
中で過ごせるだけの備蓄

電気設備は3階で2階
（浸水高）以上に住まい

1階はコミュニティルームとし、日頃から地域住民が
交流できる

この計画を知った住民から、「2階は無事だったが
1階は沈んだアパートを利用してほしい」



被災したアパートの改修プラン

2階のベランダまでスロープにリフォーム、近所の逃げ遅れた方へ安全
のおすそ分け



コミュニティルーム
兼地区の防災拠点

近所と話し合ってプランを
検討。リフォームは、真備
で活動中の建設系ボラン
ティアや地域の大工見習の
方と協力して実施。

コミュニティルームの利活用（平時・災害時）は近所の住民と共に作
り上げる（備蓄内容なども）

- 入居者は支えあう生活や災害時には自宅が避難所になる可能性があることを理解して入居できる人が条件。
- 2階には子育て世代の家族の入居を目指す※高齢者障害に限定していない。

【質問1への回答】

家賃は倉敷市の生活保護住宅扶助基準相当の35,000円の予定

半径500メートル圏内に避難所機能シェルターがあれば全員助かる

- 町内の人口分布※1（eStat2015.3.25）から，建設予定地の直径1キロの※2範囲内に人口**7 3 1**人
- そのうち65歳以上の一人暮らし又は夫婦世帯は **4 4** 人
- その他65歳以下の障害のある避難に何らかの支援を必要とする人を含めても **5 0 名**は越えない

建設予定の避難所機能シェルター	効果
3階屋上の避難者収容可能面積 約100m ²	50人～400人（立位）収容可能
3階（居住空間）の避難者（支援が必要な方）収容可能人数	25人 （1週間～10日程度） 10～15名 （3ヶ月程度）

※1：eStat2015.3.25より

※2：建設予定地にかかる500mメッシュ4四方

被災体験から学ぶ～後世へのメッセージ～

小規模多機能ホーム「ぶどうの家」代表

津田 由起子さん



0:24 / 11:33



【高画質】平成30年7月豪雨 被災体験から学ぶ～後世へのメッセージ～
その3

65 回視聴・2021/07/02



3



0



共有



保存

...

避難機能付き共同住宅（ソフト）

日頃から気にかかけあった暮らしの実現



2022年1月1日サツキアパートにて





避難機能付き共同住宅の完成 2020年6月 「興」・・・いきる

- ・スマートウェルネスとクラウドファンディングを活用し資金集め
- ・既存ストック(被災したアパートの再利用)の活用



興

51人(直接死)の犠牲を伴った西日本豪雨
災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生活を取り戻すための
「住まい・生活」を再建。

支

いきる
つながる つたえる
つどひ ひらく

伝

災害の教訓を目に見える
形で、住まい方で伝え、
次世代へつむいでいく。

共

サツキPROJECT

展

「水害に強いまち」のシンボルとし
て、避難機能付き共同住宅がサツキ
が花開くように全国に普及していく。





コミュニティルームの活用 「共」…つどう 「支」…つながる

- ・毎週水曜日10時からラジオ体操を中心におしゃべり
- ・マイタイムラインの作成会議
- ・日頃から通い慣れた場所だからこそ避難しようと思える
- ・どんな場所か何があるかわかっている集まる顔ぶれもわかる。安心できる避難場所。「普段づかいの避難」



「ちょっと困った」を
ちょっとづつ支えあう、得
意なこと誰かの役に立つ

誰もが気軽に立ち寄って、いつ
も何かがはじまる。
ちょっとした楽しみもちょっと不
安も共有できる。

興

51人(直接死)の犠牲を伴った
災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生活を取り戻す
「住まい・生活」を再建。

伝

災害の教訓を
形で、住まい
次世代へつな

支

いきる
つながる つたえる
つどう ひらく

共

サツキPROJECT

展

「水害に強いまち
を、避難機能付き
が花開くように全



避難機能の実際

「興」・・・いきる 「支」・・・つながる

- ・ 台風の時に近隣の方が避難 2020年7月14日



「ちょっと困った」を
ちょっとづつ支えあう、得
意なこと誰かの役に立つ

誰もが気軽に立ち寄って、いつ
も何かがはじまる。
ちょっとの楽しみもちょっと不
安も共有できる。

興

51人（直接死）の犠
災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生
「住まい・生活」を再

支



伝

災
形
次

共

サツキPROJECT

展

「水害
て、過
が開

住まいがあるからこそ

- ・ 地域住民として幼稚園とのかかわり
- ・ 地域住民として町の方々との交流
- ・ いつでも24時間の避難機能を発揮できる。特別な準備も不要。





視察・動画発信

「伝」・・・つたえる 「展」・・・ひらく

- 国土交通省、大学、議員、マスコミ関係者などの視察
- 500メートルごとに避難できる建物があれば、命は助かる！
- 避難機能付きの建物には補助金を！
- 被災地では、被災した建物の再利用を！
- ハードとソフトが必要！



「ちょっと困った」を
ちょっとづつ支えあう、得
意なこと誰かの役に立つ

誰もが気軽に立ち寄って、いつ
も何かがはじまる。
ちょっとの楽しみもちょっと不
安も共有できる。

支

つながる つたえる

つどろ ひらく

共 サツキPROJECT

興

51人（直接死）の特
災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生
「住まい・生活」を

伝

展

「水害
て、建
が花開

避難機能付き共同住宅（ソフト）

日頃から気にかかけあった暮らしの実現

おいでのサイン



内閣総理大臣賞表彰



2022年1月1日サツキアパートにて



心強い灯り



住民同士で生活を支える仕組み
助け隊・ありが隊

あなたの「困ったな」と、誰かの「ちょっと手伝うよ」をマッチングする有償ボランティアの仕組みです。▼ひとりの人が、「助け隊」になってサービスを行う時があれば、「ありが隊」になってサービスを利用することもあります。▼助け合う仕組みがあることで、一人でも多くの方が真価に導かれて来ることができたらいいと思います。



体操の会



パン焼き教室



「さつきPROJECT」から思うこと

- 災害後の再建には既存のコミュニティを大切に、場所と人への愛着
- コミュニティを守るにはスピード感をもって住まいを再建
- 住まいは、これまでの地域につくる
- 既存（被災した）の建物（集合住宅）を再利用することでより早く元の場合に、戻れる人が増える *復興住宅よりも1年早かった
- 避難場所兼コミュニティルームを作ること、集合住宅に住む人だけでなく地域の安心の拠点に
- 住まいが避難場所に併設されていることで、24時間365日いつでも開設できる
- 1階には住まい以外のコミュニティルームや店舗が望ましい
- 高齢者や障がいのある人ほど避難をためらう
- 日頃からなじみのある場所と人がいれば安心して避難できる
- 普段使いの避難ができる場所になれる
- 命と財産を守る取り組みが、全国に広がりますように



真備での取り組みから

- 分野やサービスの枠を超えた福祉介護医療事業所の連携
- 地域の組織（町づくり協議会）等との連携
- 必ず起こる次の災害に備えた地域の取り組み
 - 小さな単位で誰が誰といつどこに逃げるのか決めておこう
- 事業所の力を活用した避難と避難所運営を考える
- 自分たちだけでできることは、あまりにも少ない。医療介護福祉だけでなく、商店や学校、住民組織など全てがつながること。
- 具体的に災害をイメージして訓練しよう。

防災について

- まずは日頃を見直す

日頃できていないことは被災時にはもっとできない
基本的介護はできているのか？

ご家族との信頼関係はできているのか？

地域の方との話しはできているのか？

- 自分たちに何ができるのか問いかける

ご利用者さんを本当に自分たちだけで助けられるのか？

地域の方々が事業所に来られたらどうするのか？

職員も被災して誰が介護するのか？



地域連携型マイタイムライン



- 一人では避難しない、できない、ためらう気持ちを理解し合う。
- 一事業所ではどうしようもない
- 私たちは一人ではない！
- 「助けて」と言える関係性が必要。

マイ・タイムライン（個別避難計画）				作成日： 年 月 日
本人(氏名):	家族	近所	組織 (会社・施設・ケアマネ等)	
住所:	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	名称:	
携帯:(- -)	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)	担当者:	
いつもいる場所(昼 夜)	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)		
避難リュックの置き場所()	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)		
<input type="checkbox"/> 一人暮らし <input type="checkbox"/> 高齢者世帯 <input type="checkbox"/> 障害 <input type="checkbox"/> 小学生以下 <input type="checkbox"/> その他()	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)		
自宅の危険性 <input type="checkbox"/> 浸水 <input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 地震	関係: 氏名: (- -)	関係: 氏名: (- -)		
5.13日前	<input type="checkbox"/> テレビなどで大雨の情報を知る <input type="checkbox"/> 薬を余分にもらっておく <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 薬を確認する <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 薬の準備の声掛け <input type="checkbox"/> 持ち物の準備の声掛け <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 避難可能場所の把握・共有 (L3以前) <input type="checkbox"/> (L3以降)
2日前	<input type="checkbox"/> いつ避難するか相談 相談する人()	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)
1日前	<input type="checkbox"/> 家族・近所と避難準備状況を確認 <input type="checkbox"/> 避難先を決める 候補 {	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 避難所準備 <input type="checkbox"/> ()対策本部立ち上げ
避難スイッチ (L3 もしくは)				
当日前	<input type="checkbox"/> 避難の希望を介助者に伝える <input type="checkbox"/> 貴重品の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け <input type="checkbox"/> 貴重品の準備 <input type="checkbox"/> 車の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け <input type="checkbox"/> 車の準備(担当:)	<input type="checkbox"/> 避難所開設
4時間前	<input type="checkbox"/> 荷物を持って玄関で援助を待つ (居室から玄関まで 分)	<input type="checkbox"/> 避難開始	<input type="checkbox"/> 避難開始	
2時間前	<input type="checkbox"/> 避難終了	<input type="checkbox"/> 避難完了を共有(災害用伝言ダイヤル171等)	<input type="checkbox"/> 避難完了を共有(災害用伝言ダイヤル171等)	
L4 避難勧告・避難指示				
L5 避難発生				

※ □にチェックがつかない場合は、誰が実施するのか決めておくこと

マイ・タイムラインとは：

災害が起こりそうなとき、自分がいつ、なにをするか整理した行動計画

みんなで避難を考える

地域連携型
要配慮者マイ・タイムライン
(個別避難計画)

～作成ヒント集～

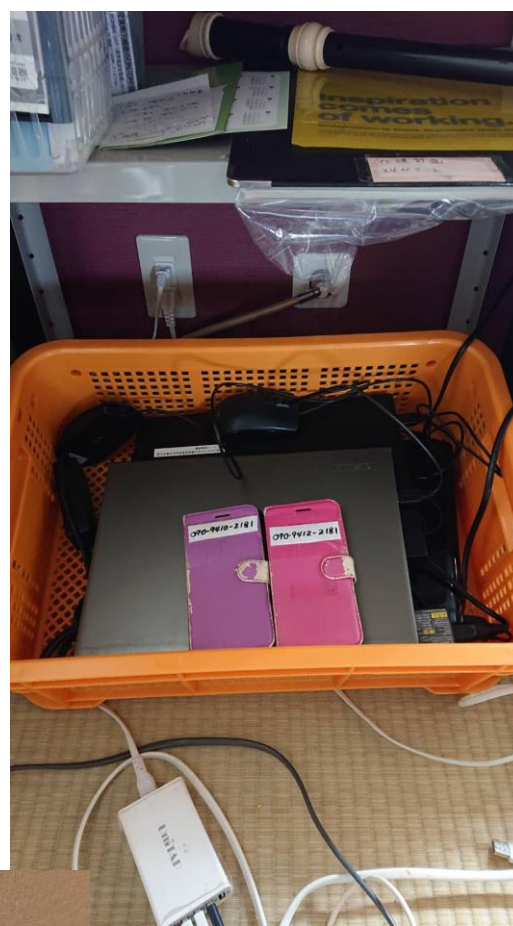
いざという時は、
みんなで声をかけあっ
て
避難しよう！



事業所内

避難グッズの準備

パソコン等一括収納



地域の方へ依頼

車の避難場所

介護の手助け

畑の野菜ちょうだい



今とこれから

- 地域の一員となる
- 自分たちだけでは命を救えない
- 極めて具体的に災害をイメージして、対策を考えると、



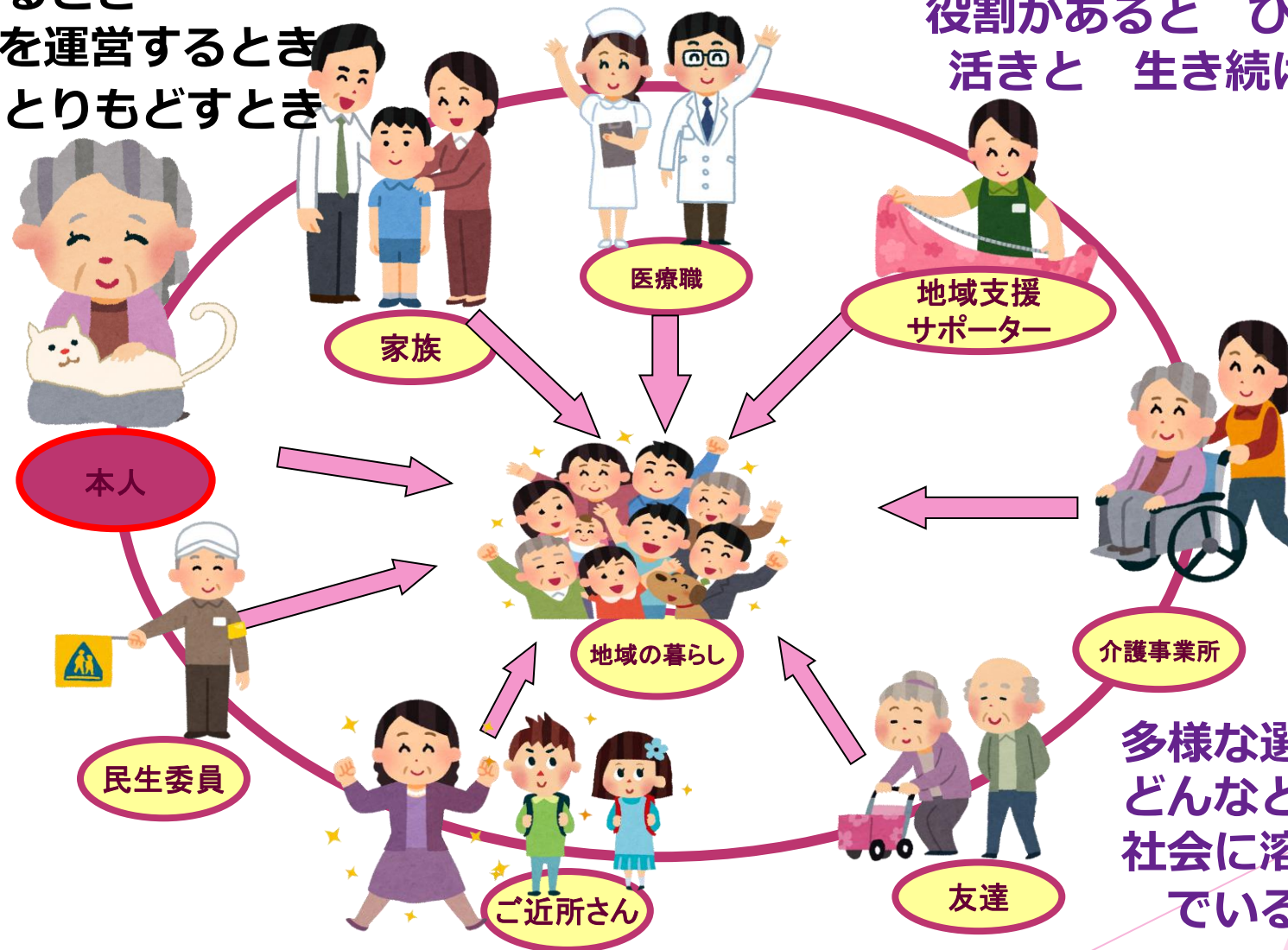
日頃から、地域の方々とつながって、
助けてと言い合える関係性を作る
それが、事業継続には欠かせない



すべてのひとが どんなときでも「地域」の 構成員

避難するとき
避難所を運営するとき
まちをとりもどすとき

役割があると ひと は 生き
活きと 生き続けられる



多様な選択肢が
どんなときでも
社会に溶け込んで
いること

地区防災計画に取り組む目標像として、要配慮者の位置づけの考え方
“助ける側” と “助けられる側” からの脱却

きっと、また会える日がある。



ご清聴
ありがとうございました。

